

ビジュアル版『とやまの和船』作成事業概要

和船建造技術を後世に伝える会

当会は、廃絶が危惧される木造和船とその建造技術の記録・収集、及び調査・研究を通して木造船そのものと、その建造技術とを後世に伝承していくことを目的に、平成 16 年度より 10 年間にわたり活動を行ってきた。その成果は 4 冊の報告書として刊行し、広く一般に周知・普及してきた。ただ、調査報告書の形式ではとっつきにくさがあり、和船とその建造技術の普及と伝承のため、より一般向けのものとしてジュニア版の冊子を刊行する必要性を感じている。そこで図面や写真、イラストを充実させた『ビジュアル版とやまの和船（仮）』を刊行し、富山県内を中心とした図書館、博物館等に頒布するほか、県内の小中学校に頒布し、これまでの調査成果の公開に努めたい。

2 か年目となる平成 27 年度には、前年度の調査内容に加えて若干の補足調査を実施したうえで、冊子の原稿を作成した。冊子の正式名称は『和船建造技術を後世に伝える会調査報告書Ⅴ とやまの海と船』とし、オールカラー A5 判で 2,000 部を印刷した。

印刷した冊子は、富山県内を中心とした図書館、博物館等に加えて、県内の小中高校に頒布し、利活用に応じた。また、希望者には有料（1 部 500 円）での頒布も行っている。有料頒布は、氷見市立博物館の窓口のほか、現金書留・定額小為替でも受け付けている。なお、この研究成果にあわせ、『とやまの海と船』PDF データを掲載しているので、そちらも参照していただきたい。

【有料頒布注文・問い合わせ先】

〒933-0016 富山県氷見市本町 4 番 9 号 氷見市立博物館気付

和船建造技術を後世に伝える会 (TEL0766-74-8231 Fax0766-74-5520)

『和船建造技術を後世に伝える会調査報告書Ⅴ とやまの海と船』目次

はじめに ～人びとのくらしと船～

1 章 船の歴史

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 船の誕生—縄文時代の舟 | 6. 大工道具の発達と中世の船 |
| 2. 富山県出土の丸木舟 | 7. 日本海沿岸地域のオモキ造り |
| 3. 丸木舟の大型化と弥生時代 | 8. 海運と弁才船 |
| 4. 古墳時代の交易と船 | 9. 江戸時代の漁撈と船 |
| 5. 『万葉集』の時代と船 | 10. 近代化と和船の終焉 |

2 章 船の構造とその種類

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 和船の広がり | 4. 富山県の和船 |
| 2. 海船と川舟 | 5. オモキ造りとその技術 |
| 3. 断面構造で和船を見る | |

3 章 とやまの和船図鑑

おわりに

調査写真



補足調査（１）

高岡市伏木国分浜のフネ。氷見のカンコと同型の船で、氷見の船大工が手掛けた可能性がある。タコツボ漁などに使用されたもの。今回の調査に際し、関連漁具を含めて収集した。



補足調査（２）

京都府宮津市栗田湾のトモブト。富山湾のドブネと同じくオモキ造りの木造船。



補足調査（３）

同じく、京都府宮津市栗田湾のトモブト。こちらはジャコの地曳網漁に現役で使用されているもの。